

公表

事業所における自己評価結果

| 事業所名 | | 公表日 | | | | |
|------------|----|--|-----|---------|--|--|
| ぼくらカンパニー博多 | | 令和7年 10月 7日 | | | | |
| | | チェック項目 | | 公表日 | | |
| | | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点 | |
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | ○ | | 100㎡以上あり定員に対して十分なスペースを確保している | |
| | 2 | 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | ○ | | 毎月のシフトで有資格者が適切に配置されるようにしている | |
| | 3 | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | ○ | | 各お部屋には、用途と決まり事が記入されたイラスト入りの表示をしている | 事務室に入ろうとする子もいるので、標識をもっと小さいお子さんの背丈に合わせたものも掲示する |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。 | ○ | | 感染症対策委員会のメンバーがとても良く頑張ってくれ、研修で習ったことを周知している | お子さんたちの創作物が溜まりがちなので、持ち帰りをさせていただき期日を決め予め予告し処分する |
| | 5 | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。 | ○ | | 事務室以外は自由に入出りできる。 | |
| 業務改善 | 6 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | ○ | | 他店舗合わせて全体ミーティングを定期的に行っており、皆で意見を出し合う機会を設けている | 全体ミーティングの時に行うこと話し合うことが多すぎるので、各店舗のミーティングでも行っている |
| | 7 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | ○ | | 保護者さまからのアンケートは各店舗のメンバー全員が目を通し、指導員は意見交換や提案に積極的である | |
| | 8 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | ○ | | 毎日のミーティングで気が付いたことは言える環境にある | 確実に反映するには係を明確にする必要がある |
| | 9 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | | ○ | | 関係機関と連携しているので外部評価をどこにすべきか思案中 |
| | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | ○ | | 定期的な全体ミーティングでは必ず研修を行っている。外部の勉強会で学んだことは、他の職員に周知している | 外部受講が偏りがちになっている。 |
| 適切な支援の提 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | ○ | | ホームページ上や掲示物で公表している | |
| | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | ○ | | 初回アセスメントで半構造化された対話で基本的なものを網羅している。 | 5領域の精度を上げるにはある程度のご来所回数があるため、余暇目的のご利用の方は他の機関で補填できるのか等考察中 |
| | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | ○ | | 毎月の個別支援計画会議でかかわっている職員の意見や見立てを必ず話し合って計画に落とし込んでいる | 毎回時間が足りないくらい皆熱心である |
| | 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | ○ | | 日々、ミーティングで個々の目標と集団活動等の意義を理解している | 現在の指導員はとてもレベルが高く関心も高い、このままのモチベーションを維持したい |
| | 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | ○ | | 標準化されたツールにVineland-IIという適応行動尺度があるが、その設問を取り入れたものでアセスメントを作成している | |
| | 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | ○ | | 昨年からのこの項目が必須になり、指定の書式になっていることから、アセスメントもそれに沿った項目にしている。これに5領域を落とし込む視点をもっと磨きたい。 | ご利用頻度が多い方は全て網羅でき見立ても目標も立てやすいが月に1回くらいの余暇的な使い方を望まれるご家庭もある。そのようなニーズも決して間違いではないので、全項目を支援するには他の機関の連携が必要になる。このコンセンサスはどかが主導するのかまだ答えがでない |
| | 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | ○ | | 指導員たちの皆の力をあわせて行っている | |
| | 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | ○ | | 予定表で同じタイトルでも中身は毎回変える。例えばSSTは、リアルに困った出来事に焦点を当てるときもあれば、年齢別の性教育の場合もある | 現在印刷物でお渡ししているが、時代的にメールのようなものが良いのか検討中 |

| | | | | | | |
|--------------|----|--|---|--|---|--|
| 供 | 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | ○ | | 中には集団活動はあまり積極的でないお子さんがいるので、個別活動で気分も高め、集団に促すような取り組みはしている | |
| | 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | ○ | | 朝のミーティングで今日の活動と個別の注意事項を話し合い確認している | 夏休みのミーティングは時間の確保が難しい |
| | 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | ○ | | 朝のミーティングよりは短くなるが、その日での疑問点はすぐ共有したいので行っている | 掃除がおろそかにならないよう時間配分を意識する |
| | 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | ○ | | 記録は十分に取っている。モニタリングにも反映でき、書くことで個々の理解の深度が深まる。 | 職員の負担になっていないかが気になる |
| | 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | ○ | | モニタリングは基本6か月ごとに行っている。記録や会議から皆で意見を出し合っている | |
| | 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。 | ○ | | 日常生活の充実自立支援、創作活動、地域交流、余暇提供、どれも密接に生活の質に関わっていることは経験からも理解している | |
| | 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | ○ | | 活動への無理強いはしない、やってみたら意外に面白かったを引き出したい。経験の積み上げから自身で選択できる力をつけてもらいたい | |
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | ○ | | 児発管が必ず参加している | |
| | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。 | ○ | | 学校担任、SSW、SC、通級、基幹相談、医療機関からの照会など連携して行っている | |
| | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | ○ | | 年間予定表、時間割や保護者からの情報で把握に努めている。トラブル発生時は管理者にすぐ連絡する体制を取っている | |
| | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | ○ | | 双方の希望が合致したときに行う | 個人情報に配慮し承諾なしにお聞きすることはない |
| | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | ○ | | 進路先が福祉サービスの場合は望まれることが多いので行っている。一般就労先は本人やご家族が望めば行う | 一般就労は学校が関わっていることが多いのでまず学校にも承諾が必要。 |
| | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | ○ | | 児童発達支援センターの相談支援員さんから申し送りを受けたりしている。 | 他の研修機関から研修を通じてのスーパーバイズが多くなる |
| | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | ○ | | とても個人差がある難しい問題だが、地域の行事で山笠や商業地区ならではのどんたく祭りなど地域交流を望むお子さんには機会はたくさんある | 一方で、登校渋り、不登校のお子さんはそのような段階でない方が多い、そのような状態のときはご家族も望まれない。 |
| | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 | ○ | | 基幹相談や基幹の研修などに参加している | 他の地区の心理研修に参加することが今年は多かった |
| | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | ○ | | 連絡帳のほかメールやお電話、面談でも行っている | 一方的な提案にならないよう尊重する姿勢を怠らない |
| | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | ○ | | 面談や会議の時に効果的と思われるご家庭での取り組みを提案させていただいている | 個別の状態が全然違うので一同を介して行うと方法に誤解が生じる恐れがある |
| 関 | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | ○ | | 見学やご契約時にお話ししている | |
| | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | ○ | | ご家族と本人の長期目標が一致しそれに向けての短期目標を設定しているが、親御さんと本人の希望が違う時は落しどころを一緒に探していく | |
| | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。 | ○ | | 説明も同意のサインもいただいている | |
| | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | ○ | | 面談、お電話、メール、連絡帳とご家族が連絡が取りやすい方法で行っている | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|---|------------------------------|--|--|
| 保護者への説明等 | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。 | ○ | | 毎回好評な保護者会「ママカフェ」ですが、テーマを決めて行っています。 | きょうだいのイベントは行っていませんが、個別の相談は受けている。他機関のきょうだいの会の案内をしたい |
| | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | ○ | | 小さなトラブルも迅速にご報告と対応をしている。 | |
| | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | ○ | | 毎月発行している「ぼくら通信」は個人情報に配慮しながら構成している活動の様子がお伝え出来るので、今後も続けたい。 | |
| | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | ○ | | 契約時には個人情報同意書の内容を説明してサインしていただいている。職員にも全員当然取っている | 通信への写真掲載の有無も確認しています。 |
| | 44 | 障がいのあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | ○ | | イベント前の事前説明は動画やイラストをふんだんに使い理解を深めてもらっている。保護者さまにはご案内を必ずだしている | |
| | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | ○ | | 事業所があるビルの方、支援企業さま、小学校の先生方が訪問したりご挨拶へ伺ったりして運営をご理解いただく努力をしている | |
| 非常時等の対応 | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | ○ | | それぞれのマニュアルを用意している。要約したものをご家庭へ配布している | |
| | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | ○ | | BCP研修は義務化されているので行っている | |
| | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。 | ○ | | アレルギー、服薬、てんかん等の設問は必ず行い把握している | |
| | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | ○ | | 医師の指示書まで至るかたはいないが、特定のアレルギーのあるお子さんは全職員が把握しておやつを持ち込みをしていただいている | |
| | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | ○ | | 必要な回数行っている記録も残している | |
| | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。 | ○ | | 避難訓練などスケジュールに入れ告知している | |
| | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | ○ | | ヒヤリハットは目につくところへ置き、直ぐ記入できるようにしている | |
| | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | ○ | | 年2回の全体ミーティングで必ず虐待防止研修は入れている。 | |
| 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | ○ | | 虐待防止研修の中に身体拘束適正化の内容を必ず入れている。 | 現在、身体を拘束しないといけない場面になるようなお子さんは在籍していない | |